



TEACHING PORTFOLIO

August 16, 2023

TAKUMI KOBATAKE

KWASSUI WOMEN'S UNIVERSITY

目次

はじめに	p.1
1. 教育の理念	p.1
2. 教育の責任	p.2
3. 教育の方針と方法	p.4
4. 教育評価・学習成果および改善	p.8
5. 今後の目標	p.10
6. まとめ	p.12
添付資料の一覧	p.13

はじめに

このティーチング・ポートフォリオは、私、小畑拓未のこれまでの教育活動を振り返り、自身の取組みを整理、省察することで、教育改善につなげることを目的としている。今後も教育理念、目標の達成に向けて改善を繰り返し、それとともに本資料も更新し続けていく予定である。

1. 教育の理念

理念① 学問や研究の楽しさを知ってもらい、生涯にわたって自分自身で成長することのできる人材を育成する

学生には、業界をリードする人材に育ててもらいたいと考えている。具体的には、新たな技術の開発や先進的な取組みに挑戦し、その結果を世間に広く周知する建築技術者・設計者になってほしい。実際、このような建築技術者・設計者、あるいは研究者の存在によって、建築物は時代の経過とともに、人間がより快適・安心・安全に過ごすことができ、地球環境にも優しいものへと変化している。私自身、生きているうちに少しでも研究と教育を通じて社会の発展に寄与したいという想いが強くあり、教育に関しては、人々の暮らしをより良くし地球環境の保全にも貢献できる業界のトップランナーを多く輩出していきたい。

上記を実現するためにはどのような教育が必要かを考えたときに、学生を長時間拘束する、大量の課題を課すといったことは現実的でなく今の時代にもそぐわないものと考える。私は、学生に学問や研究の楽しさを伝えることによって生涯にわたって自分自身で勉強、探究し、成長し続けられる人材を育成することが、業界をリードする人材育成への近道だと考える。学生には、将来的に、社会が抱える課題の解決に向けて自分自身で探究し、社会貢献して行ってほしいが、大学生の時期においてはまずは学問・研究の楽しさを知ってもらいたい。それをきっかけにして今後の人生においても探究、自己成長し続けられる人材になってほしい。

理念② 建築環境工学の知見を建築デザイン提案に活用できる人材の育成

建築には、意匠、環境・設備、構造、材料等、様々な分野が存在するが、日本においては縦割りの意識が強く、私は分野を横断した取組みが必要だと強く感じている。これによって、我が国の建築物はより良いものとなっていくと考える。学生には縦割り意識を持たず、幅広い視野を持った建築技術者・設計者になってほしいと考えており、私の専門分野である環境工学の知見を建築デザイン提案に活用できる人材の育成を目指して教育を実践している。また、私は、熱、気流、光等のシミュレーションツールを活用して研究を行っているが、このようなツールを活用する意匠分野の建築設計者はまだまだ

だ少数である。学生には、環境シミュレーションツールを活用し、建築デザイン提案を行い、地球環境の保全に貢献する設計者になって欲しいので、後述する環境シミュレーションを活用した設計演習等を実施している。

理念③ 自分自身が手本となり背中を見せる

私自身、学生時代の指導教員や会社員時代の上司の背中を見て、研究や仕事に取り組む姿勢を学んできた。

学生時代の指導教員からは、学問・研究を楽しむということを教わった。建築の話を楽しそうに話し、データや計算結果を見て一喜一憂する姿を見ているうちに、私自身も学問・研究の楽しさを知り、アカデミックの世界に飛び込んだという背景がある。

会社員時代には、常に「期待を超える」仕事を意識するということを学んだ。資料作成一つにしてもどのような構成、文章、レイアウトで作成すればわかりやすく相手に伝わるか等を考え、大小関わらず全ての仕事で想定されるよりも質の高い仕事を実施するようにしてきた。

学生にも学問・研究を楽しみ、一つ一つの仕事を高い質でこなすようになって欲しい。そのため、私自身も日頃からこのことを強く意識し、質の高い教育を提供することで、学生にとって手本となる存在になり、学生の人生に良い影響を与えたいと考えている。

2. 教育の責任

2-1. 活水女子大学の教育目標

私が在籍している活水女子大学の大学全体の教育目標は以下の5つとなっている。

1. キリスト教の教えに基づく世界観・人生観の探究を目指す。
2. 自らの主体性を発揮し、他者と協働して、課題に取り組む姿勢を養う。
3. 生涯にわたって学び、地域社会・国際社会の発展に貢献できる人間を育てる。
4. 豊かな教養と高度な専門性を備える職業人・社会人を育てる。
5. 個人の尊厳を重んじ、平和で民主的な社会の担い手を育てる。

2-2. 学部および学科の教育目標

私が在籍する健康生活学部および生活デザイン学科の教育目標は以下の通りである。

健康生活学部

人々の健康的な生活と成長を支援する力と見識を持ち、社会と時代の要請に応えることができる実践的専門職業人の育成を目的とする。

生活デザイン学科

1. デザインの魅力を探り、人々の生活や社会・環境への配慮について学ぶ。
2. 審美性・機能性などの個別要因と、生産・流通・廃棄などの社会的サイクルについて

て学び、豊かで持続可能な生活を実現するための知識と実践的能力を育てる。

3. 様々な価値観と高度化・複雑化した生活の環境要素を理解し、自由で多様なライフスタイルを尊重したデザインを実現することのできる力を育てる。

2-3. 担当授業【添付資料①】

担当授業の一覧を表1に示す。現在(2023年度)担当している科目は、全て学科の専門科目であり、前期、後期通じて14科目を担当している。担当科目の多くは建築系の科目であるが、環境問題全般を扱う「環境論」、プレゼンテーションおよびそれに関わるデザインを扱う「デザインプレゼンテーション」等も担当している。また、座学形式の授業だけでなく、「建築製図」、「建築製図CAD」、「デザインプレゼンテーション」、「デザインマネジメント」等、演習系の科目も担当している。学科専門セミナーⅠ～Ⅳに関しては、いわゆるゼミナールである。ゼミナールでは、建築環境工学の知識や熱、気流、光等のシミュレーション技術を活用した建築設計提案および研究を指導している。

過去には、学部学科を超えたクラス編成で行う「キャリアデザインセミナー」という科目も担当した。これは「住み続けられる長崎にするには」というテーマに対して、グループごとに課題解決の提案を行い、プレゼンテーションを実施するPBL (Project Based Learning) 型授業である。

表1 担当授業の一覧

	科目名	年度	専門/教養	対象年次	人数	座学/演習
現在担当科目	建築環境工学	2022・2023	専門	1年	42・未定	座学
	環境論	2022・2023	専門	1年	35・未定	座学・演習
	建築製図	2022・2023	専門	1年	36・未定	演習
	建築設備	2022・2023	専門	2年	42・32	座学
	建築製図CAD	2022・2023	専門	2年	18・36	演習
	デザインプレゼンテーション	2022・2023	専門	3年	36・30	演習
	デザインマネジメント	2022・2023	専門	3年	20・23	演習
	建築材料学	2022・2023	専門	3年	29・28	座学
	家庭電気・機械	2022・2023	専門	3年	24・未定	座学
	建築生産	2022・2023	専門	3年	33・未定	座学
	学科専門セミナーⅠ	2022・2023	専門	3年	5・3	演習
	学科専門セミナーⅡ	2022・2023	専門	3年	5・3	演習
	学科専門セミナーⅢ	2023	専門	4年	3	演習
	学科専門セミナーⅣ	2023	専門	4年	3	演習
過去に 担当した科目	学科特別講義	2022	専門	1年	24	座学・演習
	学科特別演習	2022	専門	1年	2	座学・演習
	キャリアデザインセミナー	2022	教養	1年	24	演習

2-4. 卒業研究に対する指導

私が在籍する活水女子大学生生活デザイン学科の卒業研究は、卒業制作か卒業論文を選択する形式となっており、2023年度の4年生（5名）に対しては卒業制作の指導を行っている。内容としては、温度、光、風等のシミュレーション技術を活用した建築設計提案であり、シミュレーション、建築計画、製図、3Dモデル作成、プレゼンシート作成、模型製作等の指導を行っている。来年度以降は、卒業制作、卒業論文ともに取り組んでもらう予定である。

2-5. 担任業務

2023年度入学生（生活デザイン学科 32名）の担任業務を行っている。業務内容は、学習・学生生活に関する学生との面談・相談対応、保護者対応、履修等に関するガイダンス（各学期2回程度）の実施等である。

3. 教育の方針と方法

前述した3つの理念を実現するために、以下の5つの方針で教育を実践している。方針①～③は理念①、方針④は理念②、方針⑤は理念③の実現を目的としている。

方針① 楽しく学び、学生の興味・関心を引き出す【理念①に対応】

大学時代に学問・研究の楽しさを知ってもらい、専門分野に対する興味、関心を引き出すことで、大学卒業後も生涯にわたって自己成長できる人材を育成したい。これを実現すべく以下の取組みを実践している。

A) 『今日の1けんちく』【添付資料②、③】

「今日の1けんちく」と題して、全ての担当科目で毎回、建築物を1作品紹介している。ここで紹介する建築物は授業内容とは直接関係のないものをピックアップしており、その他以下の点に留意して紹介する作品を選択している。

- ・ デザインが斬新で、学生が興味を示しやすそうなもの。
- ・ 九州内や、学生が旅行や就職活動でよく行くであろう東京、大阪等、学生が実際に見学に行きやすいもの。
- ・ 旬なもの。例えば、サッカーW杯の時期はその会場のスタジアム、WBCの時期は野球場、近所で建築家の展覧会が開催されている期間はその建築家の作品、等。

B) 授業内容に関連する作品や研究結果を積極的に紹介【添付資料②】

「今日の1けんちく」とは別に、授業の本題の中でも積極的に建築物を紹介している。建築に関わる物理現象や技術、材料等を紹介するだけではなく、それを実際に活用した建築物や関連する研究結果の紹介まで行うようにしている。

C) 『質問・感想シート』の配布・回収・回答【添付資料④】

毎回の授業で、「質問・感想シート」を配布し、授業終わりに回収、次回授業の冒頭で回答している。授業内での疑問点の解消および共有、授業改善への活用を主目的としているが、学生の興味・関心を引き出すツールとしても機能している。例えば、「今度名古屋に旅行に行くのですが名古屋で見るべき建築物はありますか？」や「私は壁面緑化の建物が好きなのですが、おススメの壁面緑化建築はありますか？」といった直接授業内容とは関係のない質問が寄せられることも多く、これらの質問に対してもしっかりと回答し、学生の知識の幅、興味・関心を広げることを意識している。また、「好きな映画は何ですか？」等、建築とも関係のない質問も多く寄せられるが、楽しく授業を受けるための一要素となればと思い回答するようにしている。

方針② 徹底的にわかりやすく【理念①に対応】

学問の楽しさを知ってもらううえで障害となるのは、学生に分からないと思わせてしまうことである。そのため、徹底的にわかりやすく伝えるよう、以下の取組みを実践している。

A) 毎回授業で配布するオリジナル資料【添付資料②】

基本的に市販の教科書は使用せず、毎回の授業でオリジナル資料を配布している。前述のように授業においては、建築に関わる基礎知識の提供だけでなく、それを実際に活用した建築物や関連する研究結果の紹介まで行うようにしているが、市販の教科書の場合は基礎知識の提供が主体となっている。また、市販の教科書の場合は文字が多く、直感的に理解することが難しいため、図やイラストを多く自作しオリジナル資料に掲載することで、全ての学生が理解しやすいようにしている。更に、市販の教科書の場合はボリュームが多く、15回の授業ではすべてを扱うことが困難なため、学生が混乱しないよう必要な情報だけを整理して資料提供するようにしている。

配布する資料は、全ての担当科目で次のような構成としている。

①質問・感想への回答 ➡ ②今日の1けんちく ➡ ③前回の復習 ➡ ④本題 ➡ ⑤記憶定着のための〇×テスト(定期試験実施科目に限る)

本題に入る前に1週間前の授業内容の復習を行い、授業終わりにその日の授業内容の〇×テストを実施することで、全学生が確実に授業内容を理解することを狙っている。

B) 特別に配布するオリジナルテキスト【添付資料⑤～⑪】

毎回授業での配布資料の他、各種ソフトウェアの使用方法等については別途テキストを作成し配布している。使用するソフトによってはそもそも教材が存在しなかったり、必要な情報だけをわかりやすく厳選して掲載したものが少ないためである。

これまでに以下の資料を作成し、授業、ゼミにおいて配布した。

- ・ Adobe illustrator によるプレゼンシート作成テキスト
- ・ Adobe Photoshop による建築パース作成テキスト
- ・ Relux による昼光シミュレーション実践テキスト

- ・ 気象データの設計への活用テキスト
- ・ CFD 解析による風シミュレーションテキスト
- ・ 日射シミュレーションテキスト
- ・ 風配図作成テキスト

C) オリジナルの試験対策用問題集の配布【添付資料⑫】

定期試験実施科目に関しては、全 15 回の授業の中間(8 回目)および最終回(15 回目)を目安に、オリジナル問題集を配布している。授業内容をただ記憶するだけでなく応用力をつけさせることを目的としている。建築士試験対策として資することも意識している。

D) 『質問・感想シート』の配布・回収・回答

前述の「質問・感想シート」は、授業内での疑問点の解消および共有を主目的としている。性格的に直接質問に来ることが難しい学生でも気軽に質問できるように、この取組みを導入している。分からなかった部分をもう一度、更に分かりやすく丁寧に回答することで、疑問の解消を全員で共有することを狙っている。

E) オリジナル動画教材の作成【添付資料⑬】

「建築製図」、「建築製図 CAD」等の演習系授業では、授業内で作業に遅れが生じる学生が出てきてしまう。そのため、動画教材を作成し、それをウェブ上にアップ、URL や QR コードを配信することで、授業時間外や自宅での作業を可能にしている。

方針③ 自信をつけさせる【理念①に対応】

「私ってすごい！？」といった具合に、学生に自信をつけさせることが、学問を楽しく感じさせ、興味・関心を持って積極的に学ぶことにつながると考える。そのため、以下の取組みを実践している。

A) 前向きになれるようなフィードバック

課題や作品には学生によって必ず優劣が生じるが、どの学生の課題、作品にも評価できるポイントが必ず 1 つはある。そのため、課題や作品に対してコメントする際は、必ず評価できるポイントを述べた後に、改善すべきポイントを話すようにしている。

B) 試験点数の開示【添付資料⑭】

定期試験の結果は、ヒストグラムを作成し平均点等の情報や総評を添えて開示するようにしている。更に希望する学生には個別で点数を教えるようにしている。大学の定期試験の点数は開示されることは少ないと思うが、自分の努力の成果をわかるようにすることで自信をつけさせたいという狙いがある。

C) 少しだけ高めのハードルを課す

課題の内容や授業で扱う内容は、学生にとって少しだけ難易度が高いものとしている。それを乗り越えさせることで、学生に成長を実感させたり、達成感を感じさせるように意識している。前述のように、授業では徹底的にわかりやすく伝えることを意識しているが、決して授業のレベルを下げるようなことはしない。

方針④ 座学で得た知識をデザイン提案に活用するという意識づける【理念②に対応】

前述のように、建築環境工学の知見を建築デザイン提案に活用できる人材を育成することを教育理念としており、得た知識を活用する・実践するというを学生に意識づけるようにしている。具体的には下記の方法を実践している。

A) レポート課題における実践を意識したテーマ設定【添付資料⑮】

レポート課題のテーマは、得た知識をデザイン提案に活用するというを強く意識したものとしている。例えば、「活水女子大学東山手キャンパスの大チャペルにおける音環境の問題点として、どのようなことがあげられるか、そしてその問題を解決するためにはどのような対策を行えば良いか、あなたの考えを述べなさい。」や「あなたの自宅等、自由に対象の住宅を選定し、その住宅の建築環境工学的な問題点(光・熱・空気・湿気・音等)をあげ、その問題を解決するための改修設計提案を行いなさい。」といったテーマ設定としている。

B) オリジナルの設計演習プログラム【添付資料⑯⑰、⑦～⑩】

他大学の建築学科では、設計は意匠系研究室の学生が行い、環境系研究室の学生は研究のみを行うケースが圧倒的に多い。学生には、環境に関する知識やシミュレーションツールを活用し建築デザイン提案を行う実務者になって欲しいので、シミュレーションツールを活用した建築設計演習プログラムを独自に考案し、3年生のゼミ(学科専門セミナーⅠ、Ⅱ)で実践している。

C) 授業内容に関連する作品や研究結果を積極的に紹介【添付資料⑱】

前述の通り、建築に関わる物理現象や技術、材料等を紹介するだけでなく、それを実際に活用した建築物の紹介を多数行うようにしている。学生の興味・関心を引き出す他にも、知識をデザイン提案に活用するイメージをつけさせることを目的としている。

方針⑤ 授業、資料はプレゼンテーションのお手本【理念③に対応】

学生には分かりやすく質の高いプレゼン、資料作成を求めるが、自分自身が手本を見せる必要がある。毎回の授業や配布資料はその手本を見せる場と捉えている。

A) 手本となる配布資料のレイアウトデザイン・授業内での話し方【添付資料⑳】

わかりやすく伝えるための発表の仕方、資料作成方法、レイアウトデザイン等を指導しているが、その内容を教員が実践できていないと説得力がなくなってしまう。そのため、全授業での配布資料は、学生に指導した内容を順守したものとするようにしている。また、話し方については、ハッキリと話し、声量やスピードに抑揚をつけるようにしている。これもプレゼンテーションにおいて学生にアドバイスしている内容と同じである。

B) 複数のオリジナル資料や動画教材の提供

前述の複数のオリジナル資料や動画教材はそれぞれに目的があるが、教員側の努力や熱意を見せる、仕事に取り組む姿勢を見せることも目的の一つである。

4. 教育評価・学習成果および改善

4-1. 授業評価アンケートの結果【添付資料⑱】

表2に授業評価アンケートの結果を示す。学生は、表内の9つの質問に対して5段階で評価を行い、「そう思う」を5点、「どちらかといえばそう思う」を4点、「どちらともいえない（普通）」を3点、「どちらかといえばそう思わない」を2点、「そう思わない」を1点として数値化される。これまでの授業評価アンケートでは、私の担当授業のスコアは大学全体の平均よりも高く、前述の取組みの成果が出ているものとする。特に、Cの教材、Dのわかりやすい説明、Fの質問機会の創出・対応に関する質問のスコアが高くなっており、複数のオリジナル資料や質問・感想シートの取組みが評価されている。自由記述の欄では「楽しかった」という声も多く確認できることから、学問の楽しさを知ってもらうという教育理念が一部では達成できていると考える。

表2 これまでの授業評価アンケートの結果

		2022年度前期		2022年度後期	
		小畑担当科目の平均	全体平均	小畑担当科目の平均	全体平均
A	教員は、シラバスを適切に説明し、その内容に沿って進めていた	4.89	4.70	4.89	4.69
B	教員は、学生に対し必要に応じて授業への主体的な参加、発言、学習等を促す工夫をしていた	4.76	4.60	4.66	4.60
C	教員は、この授業科目において、教材（テキスト、配布資料等）・PCや板書などを効果的に使用していた	4.90	4.65	4.86	4.64
D	教員は、わかりやすく説明するように努めていた	4.90	4.58	4.86	4.59
E	教員は、私語への注意など、学習に適した環境を保つよう配慮していた	4.39	4.48	4.54	4.49
F	教員は、学生の質問や相談を受ける機会を作り、それに対して適切に対応していた	4.87	4.56	4.85	4.55
G	教員は、課題（レポート、小テスト等）に対する学生へのフィードバック（評価や講評等）を適切に行っていた	4.76	4.47	4.84	4.49
H	私は、シラバスに記載されている学習到達目標を達成できた	4.51	4.38	4.49	4.33
I	私は、この授業科目の全体を振り返って、興味や関心が高まるなど、受講したことに満足している	4.63	4.52	4.64	4.48
平均		4.73	4.55	4.74	4.54

4-2. グッドレクチャー賞の受賞【添付資料⑲】

活水女子大学では、学生からの授業評価がきわめて高い教員1名を各学期でグッドレクチャー賞として表彰しており、2022年度後期のグッドレクチャー賞を受賞した。

4-3. 授業内での独自のアンケート調査【添付資料⑳】

2022年度の「学科特別講義」では、教育の成果を確認することを目的に何度か独自のアンケート調査を実施した。図1はその一例であり、授業内で実施したSDGsに関する演習の効果を確認したものである。日常生活の中でSDGs達成に資する何かしらの取組

みを実施しているかをゴールごとに確認したものであり、演習の実施によってSDGsに取り組む学生が増加した。大学共通の授業評価アンケートでは測れないような学習効果については、今後も独自アンケートで確認し、教育改善につなげていく所存である。

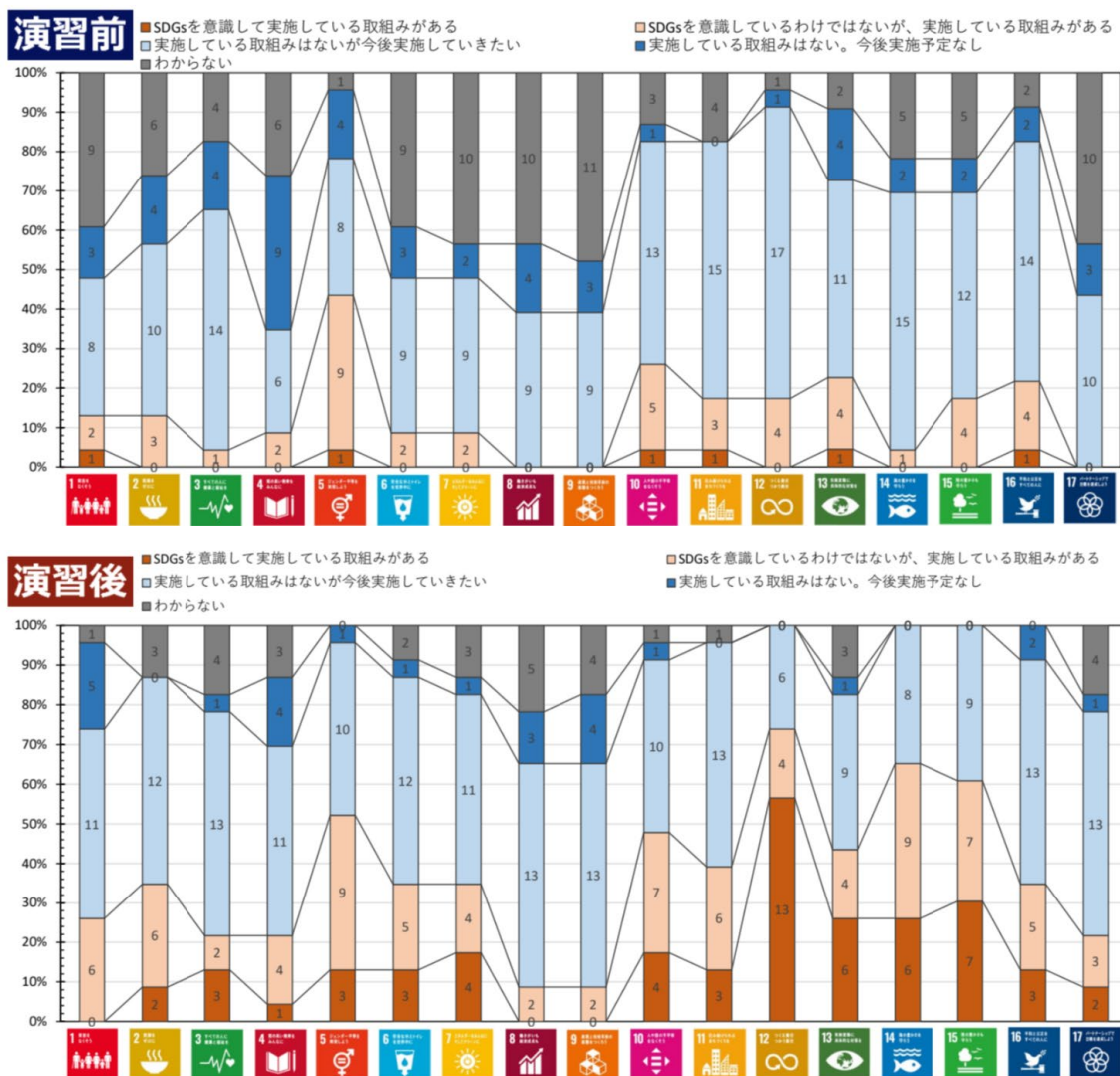


図1 演習実施前後の日常生活での取組み実施状況(2022年度学科特別講義)

4-4. 『質問・感想シート』

質問・感想シートのコメントは授業改善にも活用している。全科目で毎回、学生からのコメントをもらっているのので、学生がどの内容に興味・関心を持ったかを容易に知ることができる。そのため、2022年度の授業で、学生の興味・関心が薄いと考えられたテーマに関しては、建築事例紹介を増やす、重要度が低いものに関しては他のテーマと差し替える等、質問・感想シートを授業改善にも活用している。

5. 今後の目標

5-1. 長期目標

私の教育活動における最大の目標は「業界をリードする人材を多数輩出する」である。具体的には、新たな技術の開発や先進的な取組みに挑戦し、それを世間に広く周知する建築技術者・設計者を多く輩出することで、社会に貢献していきたい。更に具体的には、「環境工学の知見・技術を建築設計に活用し地球環境の保全に貢献できる設計者の育成」を目標とする。

5-2. 短期目標

上記の長期目標達成に向けて、まずは以下の短期目標の達成を目指す。

短期目標① 教育活動の効果、成果を継続的に確認する

現状、教員2年目であり、様々な取組みの効果がまだ現れていない、あるいは、確認できていない部分が多い。そのため、授業評価アンケート、質問・感想シート、独自のアンケート調査等の結果を十分に分析し、改善と実践、効果の確認を継続的に繰り返していく所存である。

短期目標② 学生に学会発表を経験させる

学会に参加し、他大学の学生や教員の研究、作品に触れることで、学生の学問・研究への関心をより一層深めたい。まずは、2023年度日本建築学会九州支部建築デザイン発表会(2024年3月)での発表を目指す。

短期目標③ 学科作品展(卒業制作)でのゼミ生展示作品を前年度比でクオリティの高いものとする

私が所属する生活デザイン学科では、例年2月頃に卒業制作の展示会(学科作品展)を長崎県美術館で実施している。ゼミ生には、例年の作品に比して高いクオリティの作品を展示できるように指導を行う。なお、「高いクオリティ」とは、学生自身が自分の作品を見て、過去の先輩たちよりも自分の作品が優れていると思えるようなクオリティであり、自分に自信持って卒業して行ってほしい。

短期目標④ 科目別成績優秀賞を導入する

学生に自信をつけさせる、やる気にさせることを目的に、各担当科目で成績の最優秀者(原則一名)を表彰することとする。科目ごとに表彰状を用意し受賞者に渡す。

短期目標⑤ 建築環境工学と建築設計教育のコラボレーションを研究テーマとし、教育改善につなげる

「建築環境工学と建築設計教育のコラボレーション」を研究テーマとして掲げ、研究成果を教育改善にフィードバックする。既に、2022年度の学内紀要や日本建築学会で成果を公表しているが、引き続き研究を実施し、今年度の学内紀要へ「大学における建築設計教育への環境シミュレーションの導入 その2 気流・日射シミュレーション」を投稿する。将来的には、継続して研究を行うことで、理念②「建築環境工学の知見を建築デザイン提案に活用できる人材の育成」の達成を目指す。

5-3. 理念②をより高度なレベルで達成するための中期目標

理念②をより高度なレベルで達成するために、新たな授業科目を追加したいと考えている。現状、1年生対象の「建築環境工学」、「環境論」といった科目があるが、その発展版の科目が存在しない。ゼミ内においては、環境シミュレーションを活用した設計演習を行う等、環境の知識を建築デザイン提案に活用するための実践的教育を実践できているが、ゼミ生以外の学生に対してそのような教育を行う機会が少ないのが現状である。そこで、3年生を対象に「環境建築設計演習（仮）」という授業を追加したいと考えている(半期、90分×15回)。この科目は意匠系の教員と協働で行うことを想定しており、例えば以下の内容を考えている。

- ・ 環境シミュレーションツールを活用した建築設計演習
 - 風や日射、光のシミュレーションツールを活用し、風通しが良く、冬季は日射取得、夏季は日射遮蔽が効果的に行える、更には昼光利用も効果的に行える環境にやさしい建築物を設計する。そして、図面や3Dパース、シミュレーション結果をプレゼンシートにまとめる。
- ・ 建築物の環境配慮型改修設計演習
 - 前半(1～7回)で指定された敷地に住宅等の建築物を設計する。
 - 後半(8～15回)は、建築物の環境性能を評価できるツール(CASBEE)で、自分が設計した建物の環境配慮を点数化する。その結果をもとに、より環境に配慮した建築物とするためにはどのような改修を行えば良いかを考え、改修後の評価でどの程度点数が上昇したかを確認する。
- ・ 執務者の健康、知的生産性に配慮したオフィスビルの設計演習
 - 健康や知的生産性に配慮したオフィスビルの事例調査を実施した後、オフィスビルの健康・知的生産性を評価できるツールである CASBEE-ウェルネスオフィスの概要を学ぶ。その後、指定された敷地にオフィスビルを設計し、CASBEE-ウェルネスオフィスで、自身が設計した建物を点数化する。

6. まとめ

本ティーチング・ポートフォリオのまとめを図2に示す。長期目標の実現を目指し、3つの理念のもと様々な取組みを実施しており、授業評価アンケートや学生の声からは、それらの取組みが現状功を奏していると判断できる。一方、教員2年目であるため、学生の成長や実績といった部分では、教育活動の効果を確認できていない部分が多い。そのため、効果の検証と改善を継続的に繰り返していく所存である。また、直近の短期目標だけでなく、段階的に目標を設定し長期目標の実現に近づけていく必要があるが、その筋道を立てられていないため、教員としての経験を積む中で段階的な目標を設定しそれを実現していくことで、長期目標の実現をより確実かつ高度なものとしたい。

長期目標：業界をリードする人材を多数輩出する

- ➡新たな技術の開発や先進的な取組みに挑戦し、それを世間に広く周知する建築技術者・設計者
- ➡環境工学の知見・技術を建築設計に活用し地球環境の保全に貢献できる設計者

授業・教育計画の立案

- ・授業計画の設計
- ・教材の作成

授業・教育の実行

- ・方針①～⑤の実行



図2 本ティーチング・ポートフォリオのまとめ

添付資料の一覧

- 添付資料①：担当科目のシラバス
- 添付資料②：毎回授業の配布資料（一例）
- 添付資料③：「今日の1けんちく」紹介建物リスト
- 添付資料④：「質問・感想シート」
- 添付資料⑤：Adobe illustrator によるプレゼンシート作成テキスト
- 添付資料⑥：Adobe Photoshop による建築パース作成テキスト
- 添付資料⑦：Relux による昼光シミュレーション実践テキスト
- 添付資料⑧：気象データの設計への活用テキスト
- 添付資料⑨：CFD 解析による風シミュレーションテキスト
- 添付資料⑩：日射シミュレーションテキスト
- 添付資料⑪：風配図作成テキスト
- 添付資料⑫：オリジナルの試験対策用問題集
- 添付資料⑬：動画教材の QR コード
- 添付資料⑭：定期試験結果の開示資料
- 添付資料⑮：レポート課題の一例
- 添付資料⑯：「大学における建築設計教育への環境シミュレーションの導入 その 1 昼光シミュレーション」、活水論文集 第 66 集
- 添付資料⑰：演習課題の見本作品
- 添付資料⑱：授業評価アンケートの結果
- 添付資料⑲：グッドレクチャー賞の賞状
- 添付資料⑳：「大学生を対象とした SDGs に関する認知度・関心度・取組み実施状況の把握および演習実施の効果について」、日本建築学会九州支部研究報告集